

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学校	教科	種 目	学年
107-119	高等学校	商業科	原価計算	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
190 東法	商業 190-909	原価計算 新訂版		

1. 編修の基本方針

- 費目別の原価の集計・計算方法や勘定間の振替関係、各原価計算の手続などといった原価計算に関する「知識」をただ覚えるだけではなく、何のために原価計算をおこなう必要があるのか、また原価計算の知識を身につけることで、どのように社会で役立つのかについて、丁寧な記述を心掛けた。そうすることで、「社会の形成者」（第1条：教育の目的）としての自覚を学習者に持ってもらい、将来、実際に企業で働くさいに、本書で学習した内容が（どんな形であれ）役に立つことを期待している。
- 編ごとに、その編で学習した内容について、より原理的かつ実践的な理解を促すために、深く考えさせる問題をそれぞれ設けた。これらは、複数の学習者が話し合って解答を導き出すなど、主体的な学習の題材として活用されることを想定しており、各問題について熟考したり、自分の力で調べたりした後に、その結果を自分の言葉で説明することで、思考力や判断力・表現力を育むだけではなく、真理を求める態度を養うこと（第2条第1号：教育の目標）も期待している。

2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
口絵①～⑩	<ul style="list-style-type: none"> ●イラストは男性と女性がなるべくどちらも登場するように心掛けた（第3号）。 ●企業の経営活動がグローバル化していることを学習者に意識してもらうため、製造した自動車を輸出しているイラストを設けた（第5号）。 ●各原価計算の種類（単純個別原価計算・部門別個別原価計算・単純総合原価計算・等級別総合原価計算・組別総合原価計算）について、実際の業種の例をもとにイラストを用いて説明することで、学習者が具体的なイメージを掴み 	<ul style="list-style-type: none"> ●口絵①～口絵④ ●口絵② ●口絵③～口絵⑦

	<p>やすいように配慮した（第1号）。</p>	
<p>第Ⅰ編 原価と原価計算</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●原価計算の目的を明示し、学習者に、何のために原価計算をおこなうのかを理解してもらうようにした（第1号）。 ●基本概念である原価要素の「消費」のイメージを学習者にもってもらうために、傍註で説明をおこなった（第1号）。 ●企業は、原価管理をおこない、製造活動のむだを省くことで生産能率を高める一方、製品の品質や安全性を維持しなければならないという点において、社会的な責任があることを示した（第3号）。また、地域社会や自然環境などにも配慮する必要がある旨も著述した（第4号）。 ●販売費の説明に関連して、生八ツ橋の販売員の写真を選定して掲載し、学習者に日本の伝統的な和菓子に親しみを感じてもらうようにした（第5号）。 ●学習者の生活に密接な関わりのあるサービス業の例として、理容室や美容室における収益や費用について取り扱い、学習内容をより身近に感じてもらうように配慮した（第2号）。 ●EDINETを利用して、実際の企業がどのような原価計算の方法を採用しているかについて主体的に調べさせる学習活動を設けた（第1号）。 	<ul style="list-style-type: none"> ●4 ページ、11～13 ページ ●5 ページ ●12 ページ ●26 ページ ●29～30 ページ ●32 ページ
<p>第Ⅱ編 原価の費目別計算</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●会計系のほか、倉庫係や賃金計算係、原価計算係などがそれぞれの役割を担い、お互いが密接に関わりながら職務を遂行する旨を記述した（第2号）。 ●「材料消費価格差異勘定の貸方残高が増えたときは、売上総利益がどのように変化するか」を主体的に考えさせるため、キャラクターを用いて発問をおこなった（第1号）。 ●材料費について、学習者にとって身近な製品の素材と買入部品について主体的に調べさせる学習活動を設けた（第1号）。 	<ul style="list-style-type: none"> ●39～41 ページ、63 ページ、76 ページなど ●51 ページ ●55 ページ

	<ul style="list-style-type: none"> ●労務費は、労働の対価であることを学習者に強く意識してもらうために、封筒にボーナスが入ったイラストを設けた（第2号）。 ●賃金と給料の違いについて主体的に調べさせる学習活動を設けた（第1号）。 ●経費にはどのようなものがあるかについて主体的に調べさせる学習活動を設けた（第1号）。 	<ul style="list-style-type: none"> ●57 ページ ●71 ページ ●80 ページ
<p>第Ⅲ編 原価の部門別計算 と製品別計算</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●作業くずはすべてそのまま廃棄されるのではなく、売却価値または利用価値をもち、売却によって再利用できる場合があることを取り扱った（第4号）。 ●製造間接費配賦差異の変動予算による分析および固定予算による分析のメリット・デメリットについて主体的に調べさせる学習活動を設けた（第1号）。 ●原価部門について、製造部門と補助部門がそれぞれの役割を担い、お互いが密接に関わりながら製品を製造していることが分かる図を設けた（第2号）。 ●月末仕掛品原価の計算が、完成品原価にも影響を及ぼすことについてキャラクターで呼びかけることで、学習者に月末仕掛品原価の計算の重要性を意識してもらうようにした（第1号）。 ●月末仕掛品原価の計算における平均法や先入先出法は、月初仕掛品原価と当月製造費用の単価が異なる場合に登場するものであることについて、キャラクターで説明を補足した（第1号）。 	<ul style="list-style-type: none"> ●110～111 ページ ●113 ページ ●115 ページ ●139 ページ ●141 ページ
<p>第Ⅳ編 内部会計</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●会計係のほか、倉庫係や販売係、原価計算係などがそれぞれの役割を担い、お互いが密接に関わりながら職務を遂行する旨を記述した（第2号）。 ●本来的には工場勘定と本社勘定の残高は貸借反対で一致するとしつつ、実際には未達事項などにより一致しない場合がある旨を傍註で補足した（第1号）。また、近年の情報通信技 	<ul style="list-style-type: none"> ●196～197 ページ ●201 ページ

	<p>術の発達により本社・工場間の未達事項が減少している旨を記述することで、より実務に即した内容を学習者に理解してもらうようにした（第1号）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●製造業における財務諸表の特徴について、商品売買業における財務諸表との違いに重点を置いた説明を心掛けることで、商業簿記について「簿記」や「財務会計Ⅰ」などで履修済の学習者にとってスムーズに理解できるように配慮した（第1号）。 ●本社・工場会計における工場勘定と本社勘定の残高が貸借反対で一致する理由について、また、未達事項には具体的にどのようなものがあるかについて主体的に説明させる学習活動を設けた（第1号）。 ●製造間接費を実際配賦した場合であれ、予定配賦した場合であれ、製造原価報告書の当期純利益の金額は変わらない理由について主体的に考えさせる問題を設けた（第1号）。 	<ul style="list-style-type: none"> ●210 ページ ●218 ページ ●218 ページ
第V編 標準原価計算	<ul style="list-style-type: none"> ●標準原価計算における、パーシャルプランによる記帳とシングルプランによる記帳の違いについて主体的に調べさせる学習活動を設けた（第1号）。 	●258 ページ
第VI編 直接原価計算	<ul style="list-style-type: none"> ●全部原価計算と直接原価計算のそれぞれの特徴とメリット・デメリットについて、具体的な事例を用いて主体的に考えさせる問題を設けた（第1号）。 	●278 ページ

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- 本書の巻末折込には、「部門別計算を含む個別原価計算の記帳関係」および「工程別総合原価計算の記帳方法」の全体像を掴んでもらうための勘定連絡図を設けたが、それぞれの勘定や帳票の対応関係を示す矢印の色数が多いため、カラーユニバーサルに配慮した色を選択して、色覚異常の学習者にとっても使いやすいように心掛けた。
- 本書に掲載している写真は、日本の写真だけでなく、アメリカやイギリス、ドイツなどさまざまな国で撮影されたものを掲載し、学習者にグローバルな視点をもってもらうことを意識した。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

※受理番号	学校	教科	種 目	学年
107-119	高等学校	商業科	原価計算	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
190 東法	商業 190-909	原価計算 新訂版		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

- 本教科書では、今まで商業簿記を学んできた学習者が、初めて本種目を履修されることを想定し、原価計算の全体像を俯瞰的・体系的に捉えて理解してもらうことを目標としている。原価計算の意義や目的、商業簿記との違い、原価計算と工業簿記の関係、各勘定間のコスト・フローなどに関する説明をなるべく平易な言葉で原理的におこなうことにより、真に深い理解を促すことを主眼に置いた。こうすることで、将来、学習者が実際に企業で原価計算をおこなう場合にも「使える」、実践的な知識を学習者に習得してもらうことを期待している。すなわち、今どの段階の計算をしており、必要な情報はどのようなもので（あるいは与えられた情報は何を意味し）、どうすれば欲しい情報を得られるのかについて判断し、得られた情報を有効に活用して問題を解決する能力を身につけてもらうことを期待している。
- 原価計算の知識習得に関して、学習者にとってより使いやすい教科書になるように随所に工夫を凝らした。具体的には、以下のような配慮をおこなった。
 - ①UD フォントを採用し、誰もが学習しやすい教科書になるように配慮した。
 - ②学習者が学習の見通しを的確に把握できるように、各章の冒頭にはその単元の「Point」と「Theme」を明示した。
 - ③表情豊かなネコのキャラクターによる解説を多く盛り込み、学習者がより親しみやすい教科書を目指した。
 - ④グローバル化に対応するため、基本的な会計用語については英語表記を併記し、巻末には教科書に登場する英語表記の一覧表（索引）も掲載した。
 - ⑤例題を豊富に掲載するとともに、原則として章末に練習問題を掲載した。また、思考力・判断力・表現力が培われるように、各編に少なくとも1つは「考えてみよう!」「調べてみよう!」の設問を設けた。学習者同士で対話し、考察をおこなうことにより、各編で学習した事項を実務と関連づけて理解するとともに、課題に対して主体的かつ協働的に取り組めるように配慮した。

- ⑥初めて工業簿記を学ぶ者にとってもスムーズに学習できるように、第Ⅰ編導入部分の「商業簿記との違い」や「原価計算の仕組み」については特に丁寧な記述を心掛けた。
- ⑦卓上フライス盤や卓上ボール盤のイラスト（16 ページ）、コンプレッサーや変速機のイラストなど（83 ページ）、実際の製品に忠実なイラストを数多く設けることで、学習者の想像力を掻き立てるようにした。
- ⑧例えば、黄銅丸棒に関する出庫伝票の近くに黄銅丸棒の写真を載せたり（39 ページ）、製造部門の説明の近くに実際の自動車工場の塗装部の写真を載せたり（115 ページ）するなど、学習者のイメージを助けるような写真を多く掲載した。
- ⑨巻末に原価計算基準を掲載することで、本書で学習した処理などの根拠について調べられるようにした。

2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当 時数
第Ⅰ編 原価と原価計算 第1章 原価の概念 1 工業簿記と原価計算 2 原価の意義 3 原価要素の分類	(1) 原価と原価計算 ア 原価の概念 ●製造原価と総原価の違い ●原価要素の分類	2～10 ページ	5
第Ⅰ編 原価と原価計算 第2章 原価計算の特色と 仕組み 1 原価計算の目的 2 原価計算の手続 3 会計期間と原価計算期間 4 原価計算の種類 5 製造業における原価計算 6 サービス業における 原価計算	(1) 原価と原価計算 イ 原価計算の特色と仕組み ●サービス業における原価情報の 活用の特徴	11～32 ページ	8
第Ⅱ編 原価の費目別計算 第1章 材料費の計算 1 材料費の分類 2 材料の購入と記帳 3 材料の保管と記帳 4 材料の払出と記帳 5 材料消費高の計算と記帳	(2) 原価の費目別計算 ア 材料費の計算 ●各原価要素の分類 ●各原価要素の計算方法と仕訳	34～55 ページ	8
第Ⅱ編 原価の費目別計算 第2章 労務費の計算 1 労務費の分類 2 賃金支払高の計算と記帳 3 賃金消費高の計算と記帳 4 賃金以外の労務費の計算と 記帳	(2) 原価の費目別計算 イ 労務費の計算 ●各原価要素の分類 ●各原価要素の計算方法と仕訳	56～71 ページ	7
第Ⅱ編 原価の費目別計算 第3章 経費の計算 1 経費の分類 2 経費消費高の計算 3 経費消費高の記帳	(2) 原価の費目別計算 ウ 経費の計算 ●各原価要素の分類 ●各原価要素の計算方法と仕訳	72～80 ページ	4

<p>第Ⅲ編 原価の部門別計算と製品別計算</p> <p>第1章 個別原価計算と製造間接費の計算</p> <p>1 個別原価計算と原価計算表</p> <p>2 原価計算表の記入</p> <p>3 原価計算表と仕掛品勘定</p> <p>4 製造間接費の配賦</p> <p>5 製造間接費の予定配賦</p> <p>6 製造間接費の差異分析</p> <p>7 仕損品の処理</p> <p>8 作業くずの処理</p>	<p>(3) 原価の部門別計算と製品別計算</p> <p>ア 個別原価計算と製造間接費の計算</p> <ul style="list-style-type: none"> ●原価計算表の作成 ●製造間接費の配賦 ●製造間接費差異の原因別分析 	<p>82～113 ページ</p>	<p>12</p>
<p>第Ⅲ編 原価の部門別計算と製品別計算</p> <p>第2章 部門別個別原価計算</p> <p>1 部門別計算の意義</p> <p>2 原価部門の設定</p> <p>3 部門別計算の手続</p>	<p>(3) 原価の部門別計算と製品別計算</p> <p>イ 部門別個別原価計算</p>	<p>114～133 ページ</p>	<p>8</p>
<p>第Ⅲ編 原価の部門別計算と製品別計算</p> <p>第3章 総合原価計算</p> <p>1 総合原価計算の意義</p> <p>2 総合原価計算の種類</p> <p>3 単純総合原価計算</p> <p>4 等級別総合原価計算</p> <p>5 組別総合原価計算</p> <p>6 工程別総合原価計算</p> <p>7 総合原価計算における減損および仕損</p> <p>8 副産物の評価</p>	<p>(3) 原価の部門別計算と製品別計算</p> <p>ウ 総合原価計算</p>	<p>134～194 ページ</p>	<p>14</p>
<p>第Ⅳ編 内部会計</p> <p>第1章 製品の完成と販売</p> <p>1 製品の完成</p> <p>2 製品の販売</p> <p>3 販売費と一般管理費</p>	<p>(4) 内部会計</p> <p>ア 製品の完成と販売</p>	<p>196～199 ページ</p>	<p>2</p>
<p>第Ⅳ編 内部会計</p> <p>第2章 本社・工場会計</p> <p>1 工場会計の独立</p> <p>2 取引の記帳方法</p>	<p>(4) 内部会計</p> <p>イ 工場会計の独立</p> <ul style="list-style-type: none"> ●工場会計が本社会計から独立している場合の本社と工場間の取引の記帳法 	<p>200～203 ページ</p>	<p>3</p>
<p>第Ⅳ編 内部会計</p> <p>第3章 製造業の決算</p> <p>1 決算の手続</p> <p>2 月次決算と年次決算</p> <p>3 会計期末における原価差異の処理</p> <p>4 財務諸表の作成</p>	<p>(4) 内部会計</p> <p>ウ 製造業の決算</p> <ul style="list-style-type: none"> ●製造業における決算の特徴と手続 ●製造原価報告書の作成方法 ●製造業と商品売買業の財務諸表の違い 	<p>204～218 ページ</p>	<p>5</p>

<p>第V編 標準原価計算 第1章 標準原価計算の目的と 手続</p> <p>1 標準原価計算の意義 2 標準原価計算の目的 3 標準原価計算の手続 4 原価標準の設定 5 標準原価の計算 6 実際原価の計算</p>	<p>(5) 標準原価計算 ア 標準原価計算の目的と手続</p>	<p>220～229 ページ</p>	<p>6</p>
<p>第V編 標準原価計算 第2章 原価差異の原因別分析</p> <p>1 原価差異の計算 2 原価差異の分析 3 標準原価計算の記帳方法 4 標準原価計算の財務諸表</p>	<p>(5) 標準原価計算 ア 標準原価計算の目的と手続 ●シングルプランとパーシャル プランによる記帳法 イ 原価差異の原因別分析</p>	<p>230～258 ページ</p>	<p>10</p>
<p>第VI編 直接原価計算 第1章 直接原価計算の目的と 財務諸表の作成</p> <p>1 直接原価計算の意義 2 直接原価計算の目的と方法 3 直接原価計算の手続 4 直接原価計算の財務諸表</p>	<p>(6) 直接原価計算 ア 直接原価計算の目的と 財務諸表の作成 ●直接原価計算の目的と方法 ●直接原価計算による財務諸表の 作成方法 ●全部原価計算による財務諸表との 違い</p>	<p>260～272 ページ</p>	<p>8</p>
<p>第VI編 直接原価計算 第2章 短期利益計画への活用</p> <p>1 短期利益計画に有用な情報 の提供 2 損益分岐分析（CVP分析）</p>	<p>(6) 直接原価計算 イ 短期利益計画への活用 ●原価、営業量、利益の関係を 分析する方法</p>	<p>273～278 ページ</p>	<p>5</p>
		<p>計</p>	<p>105</p>

編 修 趣 意 書

(発展的な学習内容の記述)

※受理番号	学校	教科	種 目	学年
107-119	高等学校	商業科	原価計算	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
190 東法	商業 190-909	原価計算 新訂版		

ページ	記 述	類型	関連する学習指導要領の内容や 内容の取扱いに示す事項	ページ数
279～ 280	安全余裕率 経営レバレッジ係数	1	第 15 節 管理会計 2 内 容 (2) 短期利益計画 イ 損益分岐分析と感度分析	1.5
280～ 282	原価の変動費と 固定費の分解	1	第 15 節 管理会計 2 内 容 (2) 短期利益計画 ア 原価予測の方法	2.25
			合 計	3.75